

# 経済活動の復活に向けたスタートで もう一度、地方創生に注目を！

北海道大学名誉教授 濱田 康行

## 閉鎖、閉店、廃止 の景色は良くない

最新の景気ウォッチャー調査（※1）によれば、北海道は沖縄に次ぐ高得点だ（北海道49・8、一番低い北陸は41・7）。アフターコロナ、つまり経済活動の復活に向かつてスタートする際、有利な地点に立っている。問題はこれからどうするか？ 好位置を持続できるかどうかだが、そこで

注目したいのが「地方創生」だ。それは2014年に初代の地方創生担当大臣になった石破茂さん達の努力で始まった基本政策だ。当初5年間のパイロット政策だったが延長され、現在は2019年にスタートした第2期の中間にある。補助金は加速化交付金と推進交付金に分かれ、年間の総額は2兆円を超える。

この予算をめぐって市町村および県は、地方創生計画を作成し、それぞれの政策を展開している。開始から、かなりの時間が過ぎた。それで何が変わったのか？ 必ずしも満足のいく状況にはない。地方を取り巻く状況は改善しているとはいえない。

景気はよくない。地方都市の駅前商店街が復活したとは聞かないし、若い女性の数が増えたということもない。聞こえるのは、閉鎖、閉店、廃止である。このような状況を反映してか、政府の熱意も低下しているように思われる。6月に閣議決定された「骨太の方針」（※2）には、たった2カ所、地方創生が記されているのみだ。

地方の対応も、隣りのマチがやるからウチもとなり、とにかく施策を並べて「地方創生推進交付金」を申請する。前年度の施策が効果あったかどうかを検証することになっているが、これが機能しているかどうか不安である。また、市町村の一部には「地方創生」の仕事を外部の業者に「丸投げ」している例もみられる。人手不足はわかるが、国の基本政策なのだから、と思うのである。

## 農産物の値上がりで 道内産に注目集まる

悲観的なことを書いた

が、実は希望も多い。景気ウォッチャーについては既に述べたが、日本銀行の「短観」でも北海道の状況は上向きで、心配された「ロシア問題」の影響も、いまのところ大きくない。むしろ世界的な農産物の値上がりで、これまで割高に見られていた道内産に注目が集まっている。セイコーマートはポテトチップスの原料としてアイダホ産に頼っていたが道産に切り換えるという（9月29日に



開催された討論会での丸谷智保会長の発言。

の経験が各地に累積しているのも心強い。本誌10月号に取り上げられたオホーツク管内津別町の例。地方創生というと外から来る人をアテにするが（典型は観光）、重要なのは住民のアメニティだ。これを大切にしないと人は出ていく。津別町では図書館や商業施設を整備し、まちなか再生を進め



▲北海道庁が発行する北海道創生ジャーナル「創る」と、知事が視察した北海道創生に関するページ

ている。北海道庁は地方創生のニーズを集めて冊子（『北海道創生ジャーナル』）を発行しているが、そこには興味深い例がたくさんある。

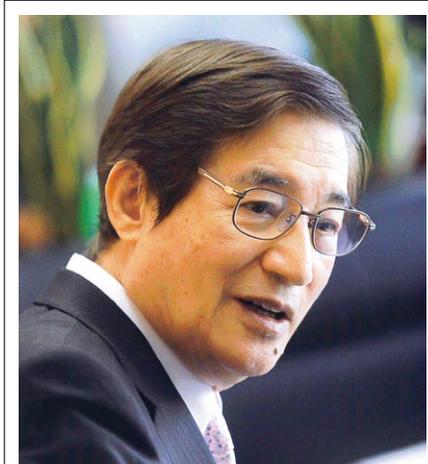
空知管内栗山町の閉校校舎を利用した「環境ハウス」はコカ・コーラ財団と市民ボランティアの共同だが、知事も視察している。檜山管内上ノ国町では廃校を利用したワイ

## 生徒・学生巻き込み まちなかキャンパス

まちなか再生を進め

まちなか再生を進め

まちなか再生を進め



（はまだ やすゆき）1948年横浜市生まれ。1970年東北大学経済学部卒。北大経済学部教授を経て、札幌国際大学学長、道都大学理事長、はまなす財団理事長などを歴任。内閣府景気ウォッチャー委員。専門は金融論、経済学博士（東北大学）。現在、(株)アインホールディングス学識顧問、キャリアバンク(株)社外取締役などを務める。



旭川市で行われたまちなかキャンパスののぼり

ナリーという試みもある。廃校ではなく、現在の生徒・学生を巻きこんだ旭川市のまちなかキャンパスも注目している。2日間で6万人以上が参加し、多くの小中学生が、短大・高専・高校の現役生が繰り広げるイベントに参加した。

もう一度、地方創生に注目したい。市町村等の担当者は、この意義ある仕事を再認識してほしい。

（※1）2000年に始まった景気調査。直接、事業に携わっている人に聞くので、マチカド調査とも呼ばれている。リードしたのは、最後の経済企画庁長官であった塚屋太一さん。筆者は発足以来この委員会の委員を務めている。

（※2）小泉内閣の時代に始まった「経済財政運営の改革と基本方針」の通称。「地方活性化」の小項目のあとに「従来の地方創生にも（傍点は筆者）取り組む」、そして観光の項目に「観光立国の復活を図り、地方創生を進める」とある。ところが、地方創生が主で観光はその手段だったはずだ。



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)